

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶をめざし、高い志と夢を持って、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。

- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる、リーダーシップを取れる人材を育成する。
- 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
- 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。

2 中期的目標

1 学力の向上と「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶

(1) 大阪を代表する全日制普通科単位制高校として、進学を重視した規律ある学校を維持、発展させる。

ア 新学習指導要領や高大接続改革に対応し、また進路実現に向け常に適切にカリキュラムや指導と評価の研究を行なうことで、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の向上のための取組みを推進する。

令和4年度において、学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を84%にする。(H29:71%、H30:75%、R1:75%)

イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。

令和4年度において、国公立大学現役合格者を22%以上にする。(H29:14.6%、H30:13.7%、R1:6.7%)

ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査・改善し、進路実現のための基礎固めを図る。

令和4年度において、一日平均学習時間(2年生10月)110分以上を維持する。(H29:94分、H30:95分、R1:107分)

エ 「槻の木NEXT STAGE」(企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など)の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で生き抜くための学びに向かう力、人間性の涵養に努める。

(2) 「規範なくして学力向上なし」を合い言葉に、高い志や倫理観と強い精神力を育て、学業と部活動・学校行事の両立のための支援と指導を行なう。また、安全で安心して学校生活に取り組める環境を維持、発展させる。

ア 学習指導・生徒指導・進路指導などの学校経営において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。

令和4年度において、遅刻者数府内最少レベルを維持する。

イ すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。

(3) グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の陶冶に向けて、学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木NEXT STAGE」等の取組みにより、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。

2 先進的で他をリードする学校づくり

(1) 強い組織力による学校力の向上をめざし、授業改善、生徒指導、進路指導に取り組む。

ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。

イ 先進校視察・研修参加と伝達研修・教職員研修により、教育力の向上と活性化を図る。

(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立

ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に対応できるよう改善に努める。また、教員がより多くの時間で生徒対応できるように業務のスクラップ&ビルドを進める。

3 保護者・地域から信頼される学校づくり

(1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入りたい」「入れてよかった」と、地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。

(2) 広報活動、情報発信の充実に努め、保護者・地域との信頼関係を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識、自尊感情の醸成	<p>(1) 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現</p> <p>(2) 高い志の育成と規範意識、自尊感情、人権意識の高揚</p> <p>(3) グローバル人材の育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・新学習指導要領を踏まえて、生きて働く「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の向上のため、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導と評価に係る研究を進め、生徒の学力及び学びに向かう力を育てる。 新学習指導要領を研究し、適切なカリキュラム編成・実施を行う。 生徒の学力を、学力生活実態調査等で分析し、生徒面談の充実を図る等して、進路実現を支援する。 職業観、勤労観育成のための取組を行うとともに、校内での進路別説明会を行う等して進路指導の充実を図る。 <p>イ・自学する意義の理解、課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の更なる活用等を通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 <p>ウ・「槻の木 NEXT STAGE」の取組みを継続し、企業、大学、地域と連携した体験・発表型進路学習を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・遅刻指導を充実し、遅刻数の府内最少レベルをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の安全確保のため、自転車指導等の交通安全週間を設け、指導の充実を図る。 学校美化や教室清掃を習慣とし、学びの場としての学習環境整備に努める。 <p>イ・保健課を中心に、相談室委員会、学年、教科担当者等が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な学校づくりのための教職員研修を実施する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「槻の木 NEXT STAGE」の一環として国際交流に取組む等、国際的な視野を育て、使える英語力の向上を図る。 学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木 NEXT STAGE」等の取組により、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。 	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断で「カリキュラムに係る満足度」85%以上を維持。 (R1:89%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「授業満足度」を80%以上にする。(R1:79%) 学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を78%にする。(R1:75%) 学習指導室(進路、教務) 学年、教科が協力して、進路実現を支援する。 国公立大学現役合格16%以上。 面談回数年間総数2160回以上を維持。 (R1:約2400回) 学校教育自己診断で「進路について考える機会がある」90%以上を維持。 (R1:92%) <p>イ・一日平均学習時間2年(10月) 平日・休日平均105分以上を維持。 (R1:107分)</p> <p>ウ・参加生徒の満足度90%以上を維持。 (R1:100%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・年間遅刻者数650人以下(R1:1057人)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」94%以上。(R1:93%) <p>イ・保健課を中心とした教育相談体制の確立。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員研修を、人権意識の向上、教育相談活動の充実について各々実施する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「槻の木 NEXT STAGE」でオーストラリアへの海外研修旅行を実施。 参加生徒の満足度90%以上。 学校教育自己診断で「学校行事に係る肯定的回答」80%以上を維持。 (R1:85%) 	
2 先進的で他をリードする学校づくり	<p>(1) 強い組織力による学校力の向上</p> <p>(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教科会を定期的に開催して教科研修を行い、授業力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員相互授業見学、教員研修を行う。 授業アンケート結果を効果的に活用し、授業改善に取り組む。 <p>イ・積極的な府教育センター等の研修への参加と伝達研修、教職員研修により、人権意識の向上、教育力の向上と活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 カウンセリングマインドのある生徒指導を推進する。 <p>(2)</p> <p>ア・効果的・効率的な協働体制の確立のため、OJTの推進、業務の見える化、業務分担の見直しを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉退庁日及びノークラブデー等による働き方改革を推進する。 	<p>(1)</p> <p>ア・教員相互の授業見学、授業アンケート結果を踏まえた教科会での協議を全教科で年間2回実施。</p> <p>イ・伝達研修、教職員研修の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」75%以上。 (R1:72%) 学校教育自己診断「生徒指導に係る肯定的回答」80%以上を維持。(R1:85%) <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」75%以上を維持する。(R1:79%)</p>	
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	<p>(1) 子どもが「入りたい」「入ってよかった」、保護者が「子どもを入りたい」「入れてよかった」学校づくりの推進</p> <p>(2) 保護者・地域との信頼関係の向上</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業公開、体育大会、文化祭、個人面談、進路説明会、PTA活動等を通じ、保護者の信頼をさらに得よう努める。 施設設備の改善に努め、学習環境の充実を図る。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動の全般について、本校生徒・保護者、中学校、中学生・保護者、地域に発信し、信頼にたる学校づくりを推進する。 ホームページの充実、メールマガジンの発信などにより、学校教育活動への理解と信頼を促す。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「入って(入れて)よかった」生徒77%以上。(R1:79%)、保護者90%以上。 (R1:90%) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの適宜更新。 メールマガジンのタイムリーな発信。 	